

平成26年度  
研究発表会

# 小学部の取組

児童の「できる」を育て

「できる」を活かす授業づくりと授業改善

～ひと・もの・ことへのかかわりを広げる～

平成27年1月30日  
小学部 横井 潤  
          國枝 勇希

# 研究テーマに迫るための方法

- ケース会議における目標の検証と見直し
- 目標達成に向けたユニット編成と授業づくり
- 役割を担う活動の学習
- 学校間交流学習や居住地校学習などの交流及び共同学習
- 指導者の指導力向上を目指した取組

# ケース会議

- 長期目標や短期目標の定期的な検証や見直し
- 学年の指導者の目標に対する共通認識
- 前年度の内に前期目標  
（半年後に期待される達成度）を設定

前期目標 → 短期目標に迫る取組の方向性を示す

# ユニット学習

| 1 年生                   | 2 年生                   | 3 年生                       | 4 年生                       | 5 年生                   | 6 年生 |
|------------------------|------------------------|----------------------------|----------------------------|------------------------|------|
|                        | 2 ・ 3 年生<br>たてわりユニット学習 | 4 ・ 5 ・ 6 年生<br>たてわりユニット学習 |                            |                        |      |
|                        | 2 ・ 3 年生<br>たてわりユニット学習 | 4 ・ 5 ・ 6 年生<br>たてわりユニット学習 |                            |                        |      |
| 1 ・ 2 年生<br>たてわりユニット学習 |                        | 3 ・ 4 年生<br>たてわりユニット学習     |                            | 5 ・ 6 年生<br>たてわりユニット学習 |      |
|                        |                        |                            | 4 ・ 5 ・ 6 年生<br>個別課題ユニット学習 |                        |      |

# 行動目標&略案シート

## ○ 児童の短期目標から行動目標を挙げる

くたてわりユニット学習 目標&略案 / 作成 枚目>  
( ) 年 「 ユニット名 」 (指導者名 )  
ユニットのねらい

|        |                 |
|--------|-----------------|
| 児童名    | A.              |
| 短期目標   |                 |
| 行動目標   | 短期目標に迫る行動目標を挙げる |
| 優先目標に* |                 |

# できます会

- 2・3年生たてわりユニット学習
  - 4・5・6年生たてわりユニット学習
  - 1年生学年ユニット学習
- 
- 参観者の視点
  - 継続することで流れを汲んだ意見交換
  - 授業全体の改善に繋がる

# できます会



# 学校間交流学習

相手校

3年生

4年生

5年生

ねらい

知る

一緒に  
活動する

良さや頑張りに  
気づく

活動

鑑賞・発表

大きな集団  
(4～6年生)

小さな集団  
(クラス)



# 学校間交流学習（４年生）

昨年度

双方の児童のめあてを明確にした活動

マラカス  
作り

共に楽しむ  
発表

メッセージ

今年度

児童同士のかかわりに注目した活動

持ち手をつける

ソーラン節

手渡された  
メッセージ

# 学校間交流学習（マラカス作り）



# 学校間交流学習（３年生）

目的意識を持って  
発表や鑑賞をすることができた

地域調べ学習

地域での発表の一環

壁新聞  
(展示発表)

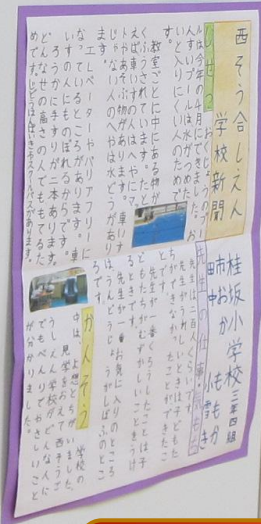
テーマソング  
(舞台発表)



# 桂坂 小学校

3 年生

学校間交流学習の  
一環として  
調べ学習にきました



文化の部・展示発表

# 成果と課題

- 全ての児童の行動目標を挙げたことで具体的な活動が見えた
  - △ 広く見渡すことができたが目標の頻繁な更新には至らなかった
- 1 児童の目標を深く掘り下げることで授業全体の改善ができた
  - △ 長期目標を見据えた活動を意識しづらかった
- 学校間交流学習では互いのめあてを確認しながら取り組めた
  - △ 継続的に互いのめあてを意識しながら取り組んでいく

平成27年1月30日 小学部